

スーパーマーケット販売統計調査資料

2014年12月実績 速報版
11月実績 確報版(パネル285)
2014年 年間集計結果 速報版

(2015年1月21日公表)

調査資料概要

【パネル285】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象として同一285社を集計
※2014年4月実績よりパネル対象企業変更(306社→285社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーパー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2015年1月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2014年12月実績 速報版 (パネル285)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,684,275	100.0%	102.5%	100.5%
食品合計	76,757,239	87.5%	103.1%	100.9%
生鮮3部門合計	29,461,126	33.6%	103.5%	101.3%
青果	10,669,645	12.2%	98.3%	96.3%
水産	8,928,607	10.2%	104.3%	102.4%
畜産	9,862,874	11.2%	109.2%	106.2%
惣菜	8,304,762	9.5%	106.7%	103.8%
日配	15,897,817	18.1%	102.7%	100.6%
一般食品	23,093,534	26.3%	101.6%	99.7%
非食品	7,762,157	8.9%	98.4%	97.7%
その他	3,164,879	3.6%	98.4%	97.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,561,563	48	101.7%	98.6%
関東地方	31,746,968	73	104.4%	102.2%
中部地方	12,086,450	57	102.5%	100.8%
近畿地方	17,213,860	43	100.1%	98.8%
中国・四国地方	6,845,998	39	102.4%	100.9%
九州・沖縄地方	5,229,436	25	102.0%	100.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	1,059,028	53	98.7%	99.4%
4~10店舗	4,388,292	72	101.8%	100.9%
11~25店舗	12,655,090	68	100.3%	99.6%
26~50店舗	17,108,983	41	102.6%	100.6%
51店舗以上	52,472,881	36	103.1%	100.7%
集計企業数 (社)	285	既存店総売上高 (万円)	84,607,648	
総店舗数 (店舗)	6,646	店舗平均月商 (万円)	13,194	
総売場面積 (㎡)	10,825,734	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.1	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2015年1月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2014年11月実績 確報版 (パネル285)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	80,050,968	100.0%	102.5%	100.6%
食品合計	70,077,255	87.5%	103.1%	101.1%
生鮮3部門合計	26,292,014	32.8%	103.2%	101.1%
青果	9,804,073	12.2%	96.2%	94.4%
水産	7,175,378	9.0%	105.2%	103.2%
畜産	9,312,562	11.6%	109.8%	107.3%
惣菜	7,455,161	9.3%	106.2%	103.6%
日配	15,283,257	19.1%	102.5%	100.6%
一般食品	21,046,823	26.3%	102.5%	100.7%
非食品	7,008,849	8.8%	97.6%	97.0%
その他	2,964,864	3.7%	99.1%	99.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,459,880	48	102.6%	100.0%
関東地方	28,731,223	73	104.5%	102.4%
中部地方	9,722,290	57	103.6%	101.7%
近畿地方	17,685,779	43	100.0%	98.2%
中国・四国地方	7,166,135	39	100.2%	99.9%
九州・沖縄地方	4,285,662	25	101.4%	100.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	821,722	53	98.8%	98.3%
4~10店舗	3,529,907	73	101.6%	100.6%
11~25店舗	10,609,783	72	101.0%	99.9%
26~50店舗	13,897,676	43	102.4%	100.3%
51店舗以上	51,191,880	41	102.9%	100.9%
集計企業数 (社)	285	既存店総売上高 (万円)	77,269,530	
総店舗数 (店舗)	7,344	店舗平均月商 (万円)	10,900	
総売場面積 (㎡)	12,031,181	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2015年1月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2014年年間集計（2014年1月～12月）速報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	977,131,809	100.0%	103.1%	100.9%
食品合計	864,941,888	88.5%	103.7%	101.3%
生鮮3部門合計	328,226,647	33.6%	105.6%	103.2%
青果	130,523,690	13.4%	103.3%	101.0%
水産	90,096,347	9.2%	104.3%	102.0%
畜産	107,606,609	11.0%	109.9%	107.1%
惣菜	91,646,016	9.4%	105.7%	102.7%
日配	184,813,485	18.9%	103.0%	100.7%
一般食品	260,255,740	26.6%	101.0%	98.9%
非食品	79,847,718	8.2%	98.5%	98.0%
その他	32,342,203	3.3%	98.0%	97.8%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	156,877,177	48	102.5%	99.8%
関東地方	347,127,095	73	105.4%	102.6%
中部地方	120,335,974	57	102.6%	101.1%
近畿地方	212,003,067	43	101.1%	99.2%
中国・四国地方	87,430,520	39	101.1%	100.1%
九州・沖縄地方	53,357,977	25	101.9%	101.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	9,809,207	51	101.2%	99.3%
4～10店舗	47,883,198	79	101.9%	101.6%
11～25店舗	130,327,179	71	100.7%	100.2%
26～50店舗	193,304,099	46	102.6%	100.7%
51店舗以上	595,808,127	38	103.8%	101.0%

※保有店舗数カテゴリーは2014年4月時点での保有店舗数による分類

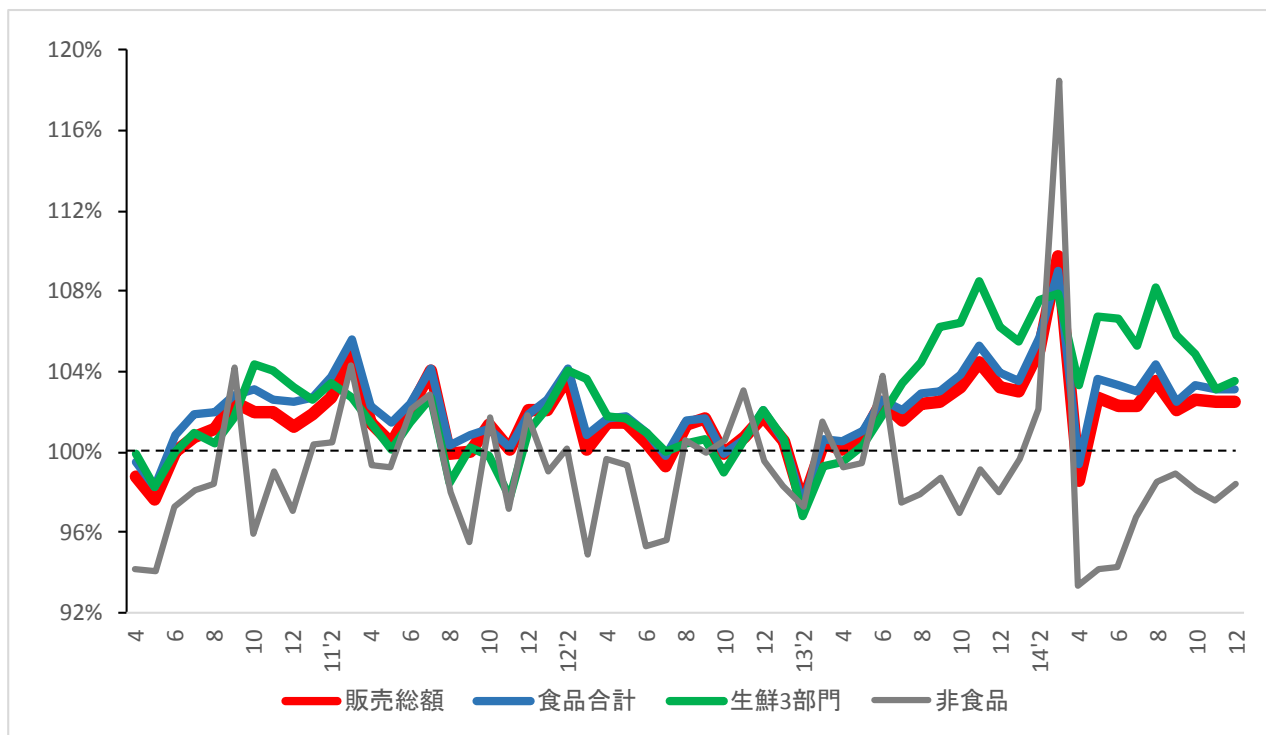
集計企業数（社）	285	既存店総売上高（万円）	938,555,181
		店舗平均月商（万円）	11,210
		売場1㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2014年12月(全店ベース対前年同月比)

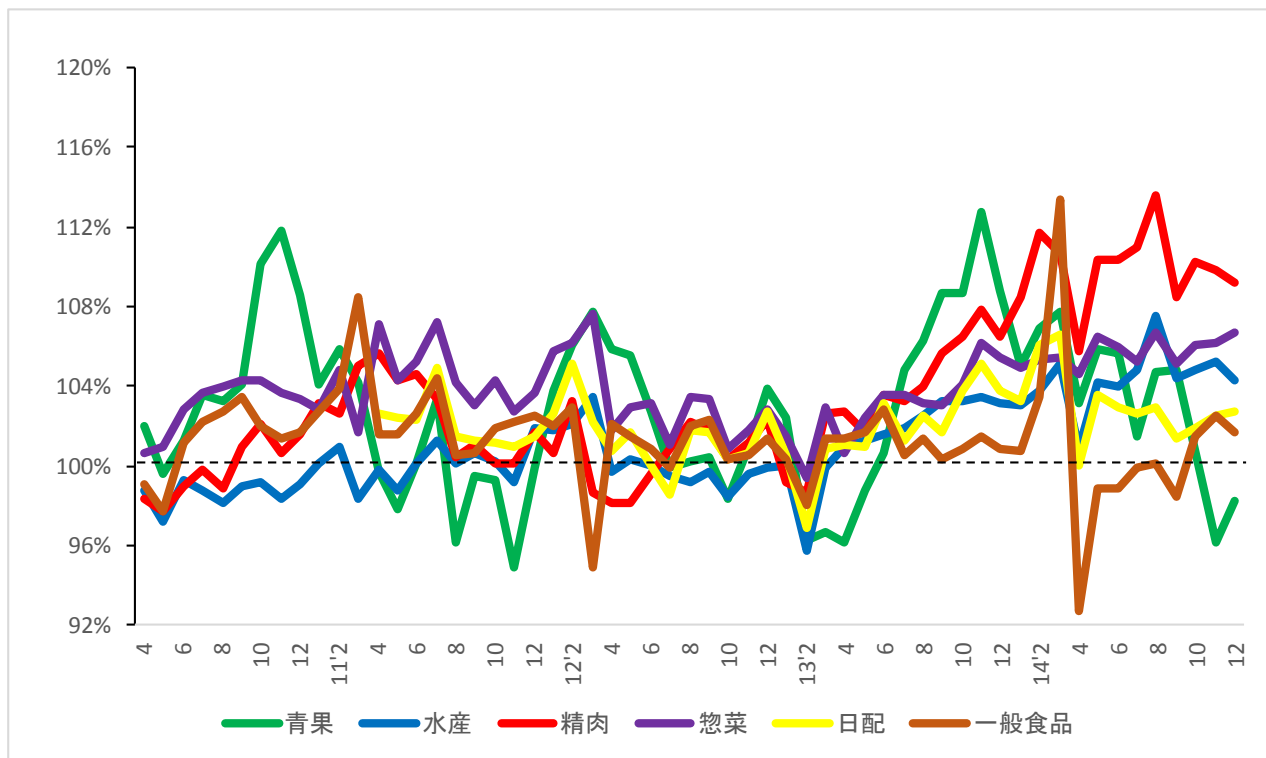
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



※2010年4月～2014年11月までは確報版による前年同月比、2014年12月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「非食品」に「その他」を含む

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2014年12月(全店ベース対前年同月比)

青果・水産・畜産・惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2014年11月までは確報版による前年同月比、2014年12月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」を含む

2014年12月エリア別気候状況

①平均気温

2014年12月(平年との比較)

上旬、中旬は全国的平年より低く、特に中旬、北陸から九州地方にかけてかなり低い気温となった

前年同月(2013年12月)と比較

前年高かった東北地方では気温差(低)が大きく、その他でも上旬と中旬は前年より気温が低くなった

	平年との比較(°C)								
	2014年12月			2013年12月(前年)			今年と前年との差(°C)		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	-1.5	0.4	-0.2	-1.0	-0.5	-2.4	-0.5	0.9	2.2
東北地方	-1.6	-1.7	-1.3	2.1	2.7	1.4	-3.7	-4.4	-2.7
関東甲信地方	-1.0	-1.6	-0.4	0.8	-0.5	-0.3	-1.8	-1.1	-0.1
北陸地方	-2.6	-2.5	-1.3	0.1	-0.4	-0.9	-2.7	-2.1	-0.4
東海地方	-1.7	-2.2	-0.4	0.5	-0.9	-1.0	-2.2	-1.3	0.6
近畿地方	-1.8	-2.4	-0.6	0.0	-0.8	-1.1	-1.8	-1.6	0.5
中国地方	-2.3	-2.6	-0.7	0.2	-1.1	-1.3	-2.5	-1.5	0.6
四国地方	-1.9	-2.3	-0.7	0.0	-0.9	-1.2	-1.9	-1.4	0.5
九州北部	-2.1	-2.1	-0.7	-0.1	-1.3	-1.7	-2.0	-0.8	1.0
九州南部・奄美地方	-1.5	-1.7	-0.8	-0.6	-0.9	-1.5	-0.9	-0.8	0.7

平年差



前年差



②日照時間

2014年12月(平年との比較)

上旬から中旬にかけて北陸地方で短い日照時間となり、その他でも中旬はやや短い日照時間となった

前年同月(2013年12月)と比較

上旬は全国的にやや短く、前年もやや短い中旬は、ほぼ前年並みの日照時間となった

	日照時間 平年比(%)								
	2014年12月			2013年12月(前年)			今年と前年との差(%)		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	90	88	80	89	116	101	1	-28	-21
東北地方	67	68	85	106	89	82	-39	-21	3
関東甲信地方	105	80	110	116	84	109	-11	-4	1
北陸地方	41	30	81	101	31	73	-60	-1	8
東海地方	103	72	113	117	80	101	-14	-8	12
近畿地方	99	56	110	129	68	101	-30	-12	9
中国地方	79	65	103	101	63	78	-22	2	25
四国地方	91	66	104	115	70	98	-24	-4	6
九州北部	57	71	117	108	66	79	-51	5	38
九州南部・奄美地方	79	73	113	128	60	96	-49	13	17

平年差



前年差



③降水量

2014年12月(平年との比較)

中旬は全国的に平年の2倍から3倍の降水量を記録し、北陸では月をとおして多くなった

前年同月(2013年12月)と比較

前年も中旬は降水量が多かったが、今年は前年を上回るかなり多い降水量となった

	降水量 平年比(%)								
	2014年12月			2013年12月(前年)			今年と前年との差(%)		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	148	251	85	128	109	100	20	142	-15
東北地方	188	224	111	55	337	66	133	-113	45
関東甲信地方	98	335	76	53	253	38	45	82	38
北陸地方	281	205	185	103	140	129	178	65	56
東海地方	96	374	61	98	157	61	-2	217	0
近畿地方	102	288	121	153	127	143	-51	161	-22
中国地方	117	241	58	144	118	140	-27	123	-82
四国地方	98	369	85	194	220	113	-96	149	-28
九州北部	130	251	51	102	182	66	28	69	-15
九州南部・奄美地方	75	245	45	122	244	51	-47	1	-6

平年差



前年差



気象庁ホームページより引用

平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2015年1月調査結果(12月実績)

(1月21日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況:「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

① 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で調査

② 前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より調査開始

2.カテゴリー動向:「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

① 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で調査 ※2014年4月実績より調査開始

② 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント ※2014年4月実績より調査開始

経営動向調査DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感:「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

① 2~3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

② 今後2~3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

景況感DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0.0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通し判断共に4ヵ月ぶりにやや反発

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+3.1の46.3、見通し判断前月から+2.1の42.5と4ヵ月ぶりに反発をみせた。

経営動向調査結果では、売上高DIが-3.9（前月比-0.2）、収益DIは-0.4（前月比-3.0）となり共に前月からほぼ変わらない水準であった。青果相場は下落しているものの、精肉や鮮魚相場が高止まりしていることで生鮮仕入原価DIが12.7（前月比-6.7）と上昇し、販売価格DIや客単価DIがどちらも上昇したものの、来客数DIが-15.3（前月比-4.5）が下落したため、売上高や収益の上昇につながらなかったとみられる。

カテゴリ動向結果では、青果DIが相場安により-19.0（前月比+1.6）と不調も、畜産DI16.8（前月比-1.2）と引き続き好調であり、水産DIも4.7とやや好調を維持している。惣菜はプラスを維持し、日配は前月と変わらず、一般食品と非食品は共に二桁のマイナスで不調となった。

景況感調査で象徴的だったのは、消費者購買意欲DIの動きであり、現状判断は46.2（前月比+3.0）と改善を見せたものの、見通し判断は41.5（前月比-0.4）と横ばい推移である。また景気判断DIは共に改善したものの、現状46.3と先行き判断42.5とやや乖離があることから消費の先行きに対して不安と慎重な見方が多い。2015年は再び上昇トレンドに回帰することができるか、見通しDIの動向に注目していきたい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：46.3 (+3.1)
前月：43.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：45.9 (+1.4)
前月：44.5

消費者購買意欲DI
当月：46.2 (+3.0)
前月：43.2

周辺地域 競合状況DI
当月：40.9 (-0.3)
前月：41.2

見通し判断

景気判断DI
当月：42.5 (+2.1)
前月：40.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：45.1 (+1.8)
前月：43.3

消費者購買意欲DI
当月：41.5 (-0.4)
前月：41.9

周辺地域 競合状況DI
当月：38.6 (-0.6)
前月：39.2

経営動向調査

経営状況

売上高DI
当月：-3.9 (-0.2)
前月：-3.7

収益DI
当月：-0.4 (-1.1)
前月：0.7

販売価格DI
当月：11.0 (+5.0)
前月：6.0

客単価DI
当月：9.4 (+6.4)
前月：3.0

来客数DI
当月：-15.3 (-4.5)
前月：-10.8

生鮮品仕入原価DI
当月：12.7 (+6.7)
前月：6.0

食品仕入原価DI
当月：12.3 (+1.5)
前月：10.8

カテゴリ動向

青果DI
当月：-19.0 (+1.6)
前月：-20.6

水産DI
当月：4.7 (-1.7)
前月：6.4

畜産DI
当月：16.8 (-3.1)
前月：19.9

惣菜DI
当月：8.9 (+1.7)
前月：7.2

日配DI
当月：-3.7 (-1.2)
前月：-4.9

一般食品DI
当月：-12.0 (-4.4)
前月：-7.6

非食品DI
当月：-14.6 (-0.4)
前月：-14.2

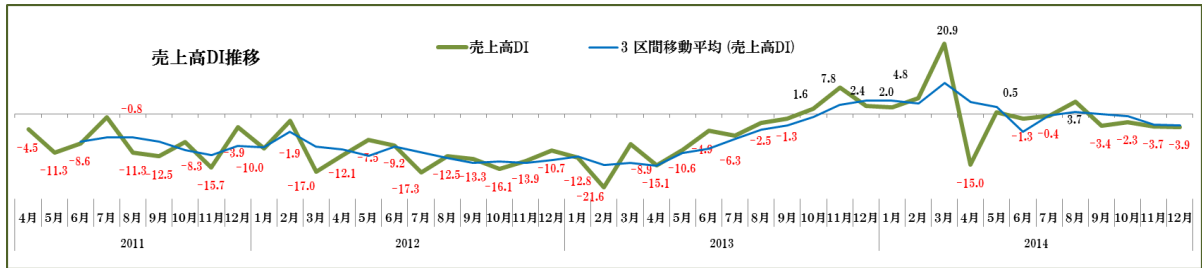
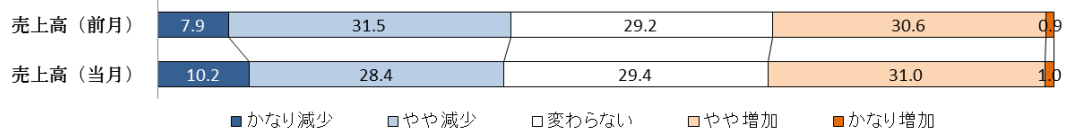
() 内は前月DIとの増減（赤字はDI減少）

12月調査（11月実績）結果詳細

1. 経営動向調査

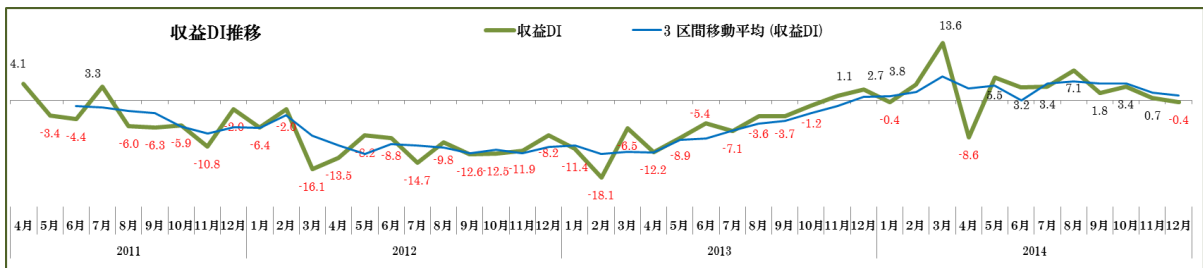
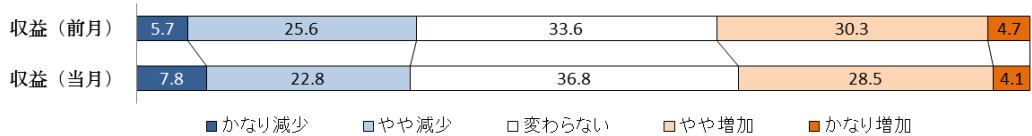
①売上高 DI

4ヵ月連続のマイナスも底堅く推移



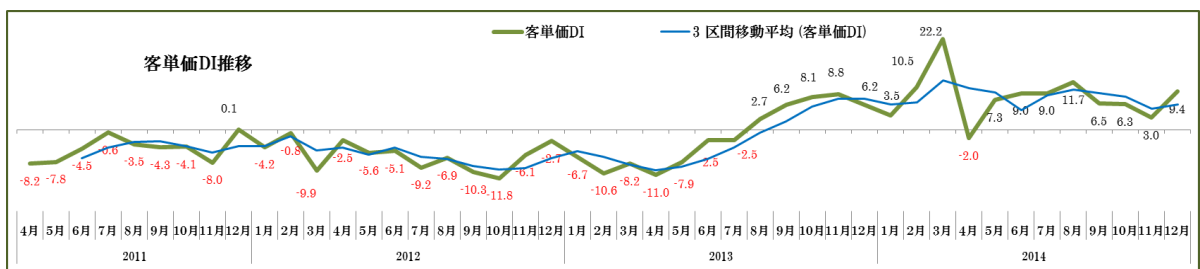
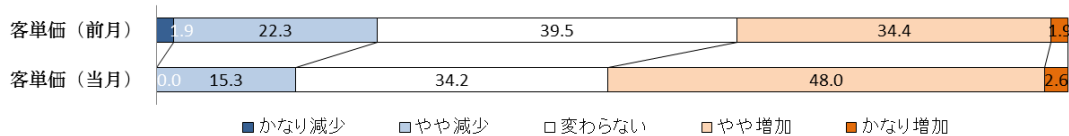
②収益 DI

ゆるやかに下降しており、12月は8ヵ月ぶりにわずかなマイナス



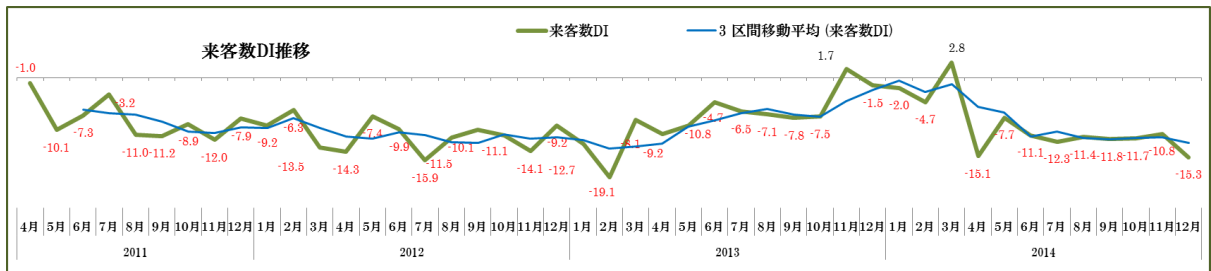
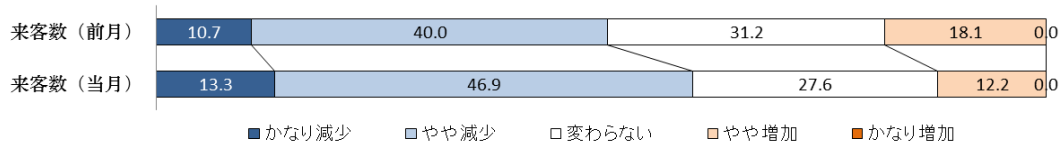
③客単価 DI

8ヵ月連続でプラスを維持し、12月は再び上昇



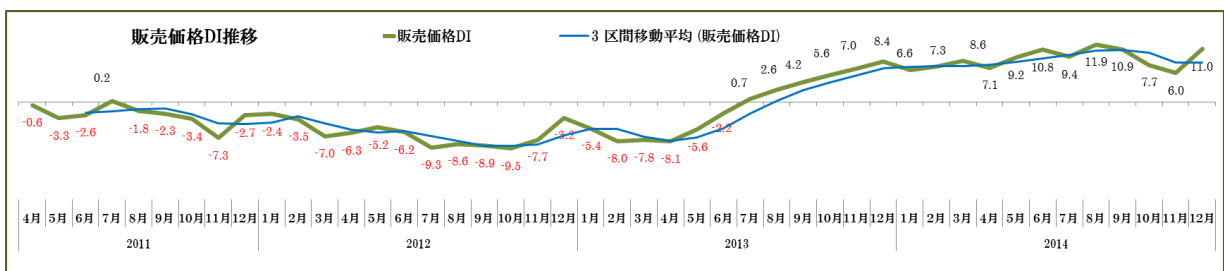
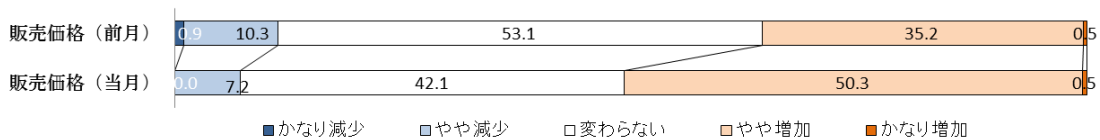
④来客数 DI

二桁のマイナスが続き、4月の税率引上げ直後の水準まで下落



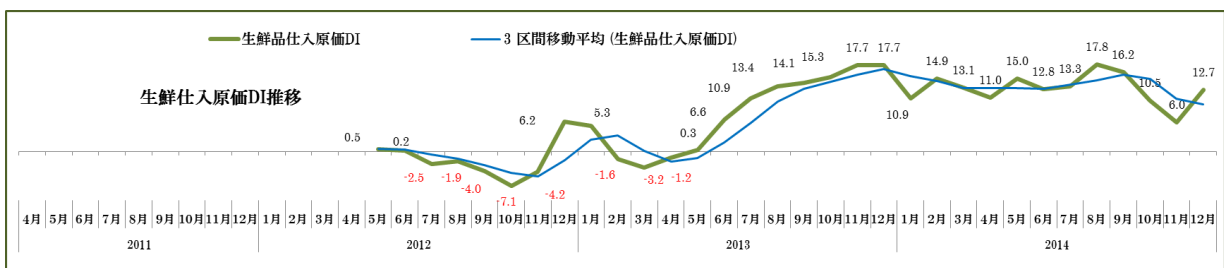
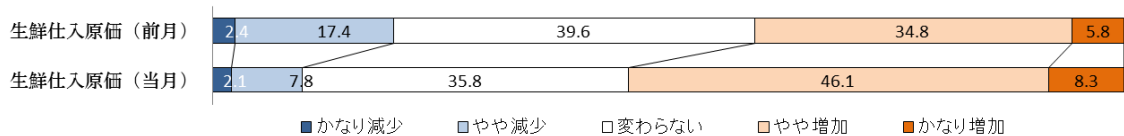
⑤販売価格 DI

2013年7月からプラスを維持し、12月は上昇して二桁プラス



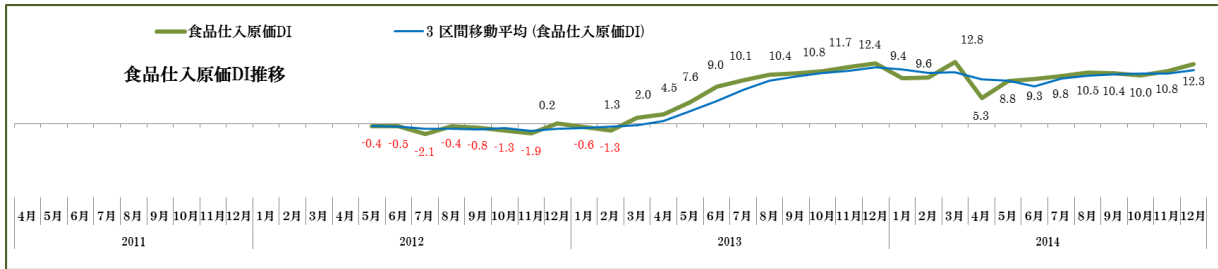
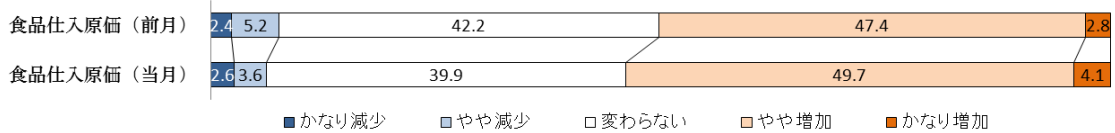
⑥生鮮仕入原価 DI

8月をピークに下降しているが、12月は上昇して二桁のプラス



⑦食品仕入原価 DI

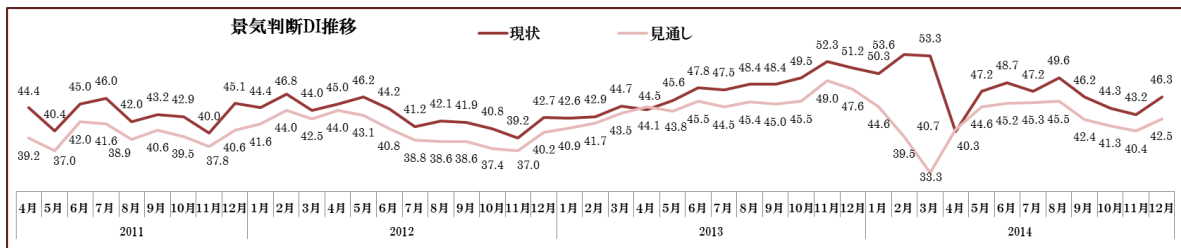
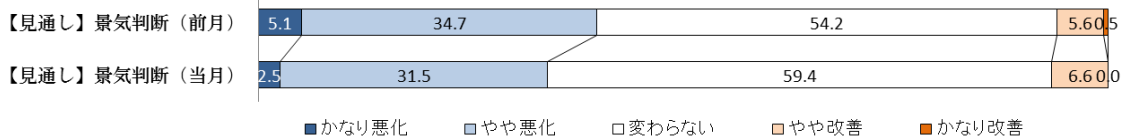
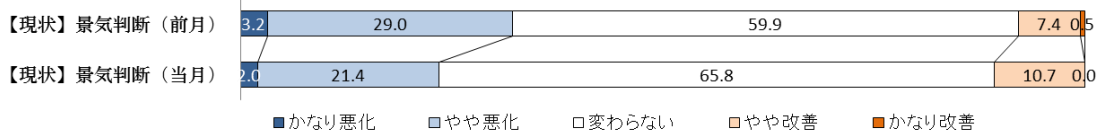
高水準で横ばい推移が継続



2. 景況感調査

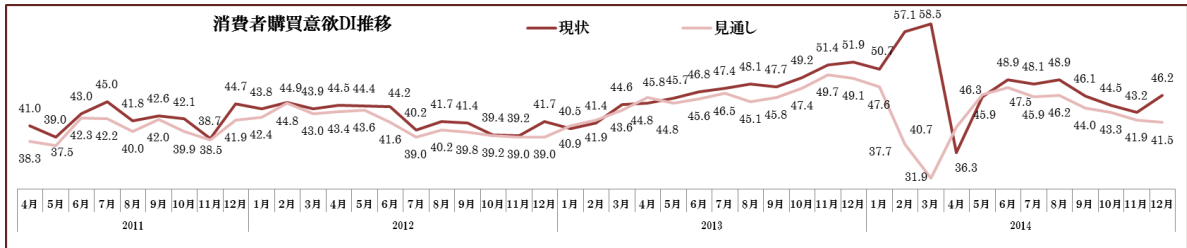
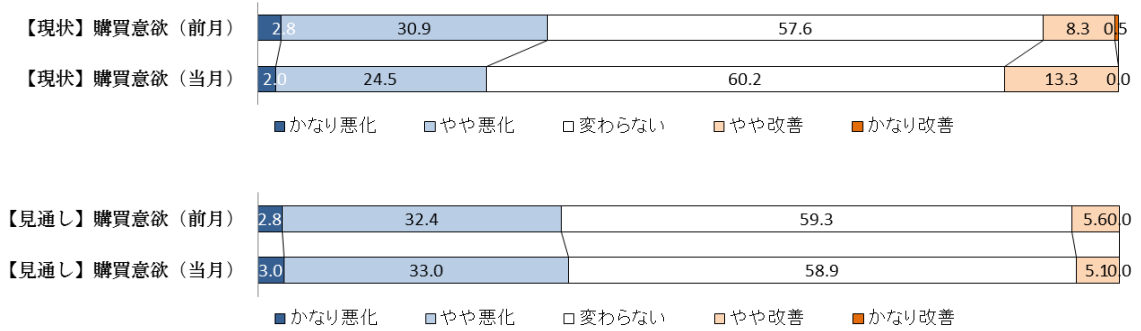
①景気判断 DI

現状、見通し判断ともに12月はやや反発をみせる



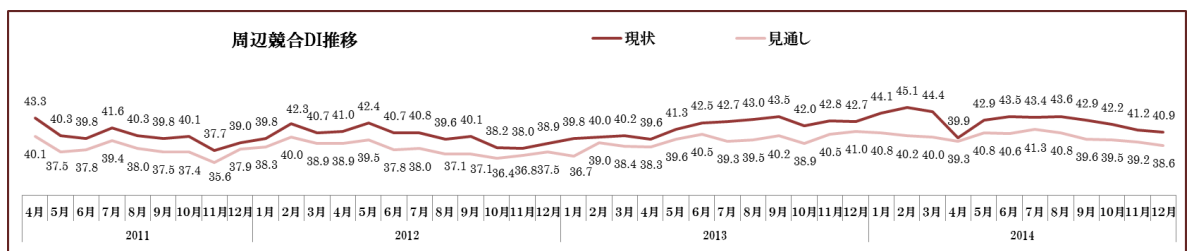
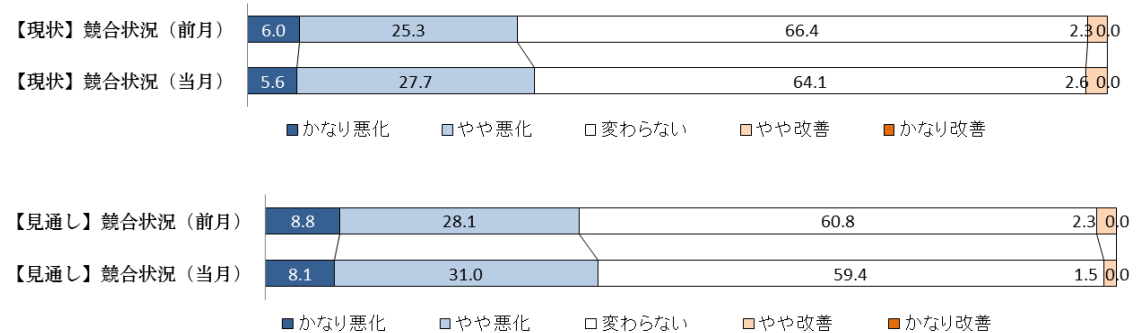
②消費者購買意欲 DI

現状判断は反発するも、見通し共に4ヵ月連続の下降で対照的な動きをみせる



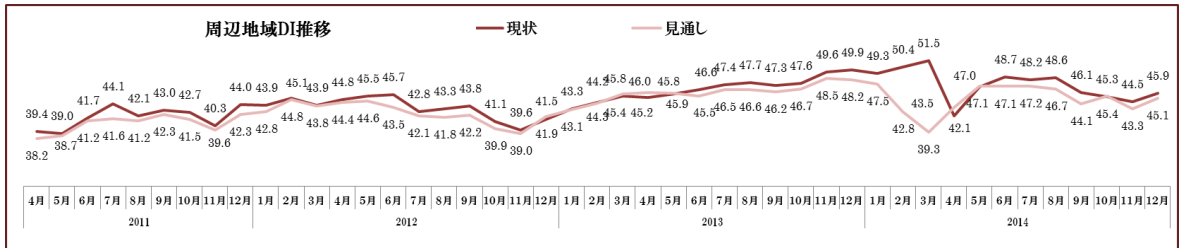
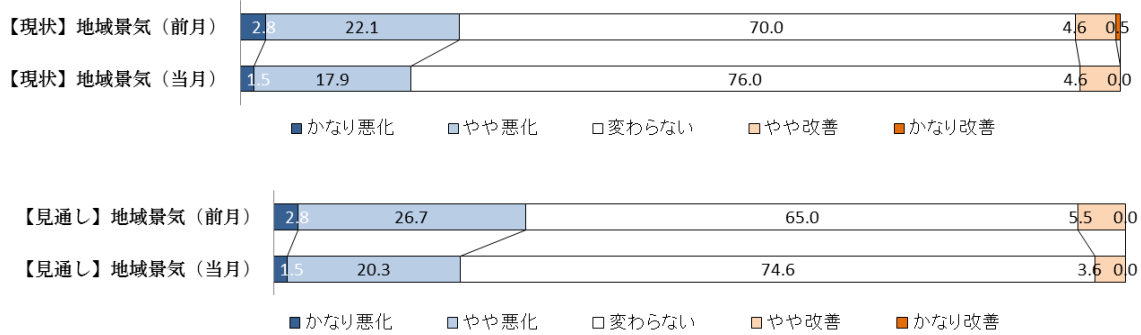
③周辺競合状況 DI

引き続き横ばい傾向が続き、改善の動きは見られず



④周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断とも12月はやや反発をみせる

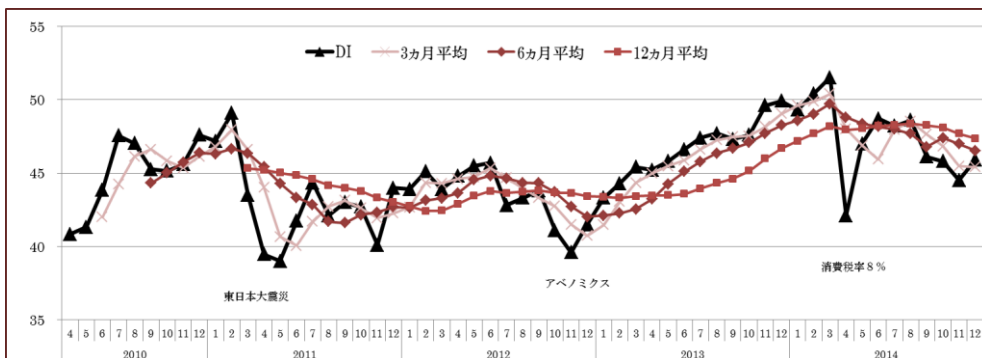


長期傾向 (周辺地域景気判断 DI)

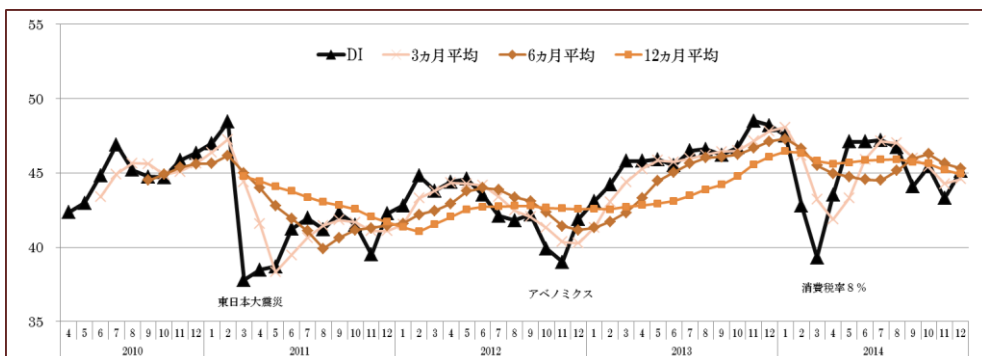
消費税率引き上げの影響を受け下落した現状判断DIは、その後6月～8月は横ばい推移、9月～11月で下降、12月はやや反発をみせた。依然としてすべての平均線が下降方向に推移しており、また単月(45.9)、3ヵ月(45.4)、6ヵ月平均線(46.5)がいずれも12ヵ月平均線(47.3)を下回る推移が続いており、下降トレンドが継続している。トレンドの転換を確認するためには、短期平均線が長期平均線を上回る必要がある。

見通し判断DIも同様に弱含みな推移を続けているが、すべての平均線が非常に接近しており、次月の結果によっては、トレンドが転換する可能性がある。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



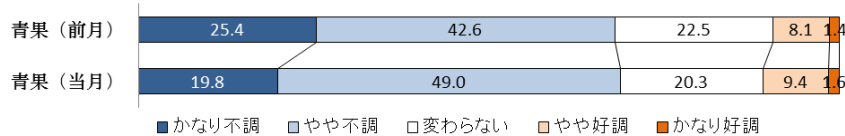
3.カテゴリー別動向

DIによる好不調判断

かなり好調:20 以上 **好調**:10~20 **やや好調**:0~10
かなり不調:-20 以下 **不調**:-20~-10 **やや不調**:-10~0

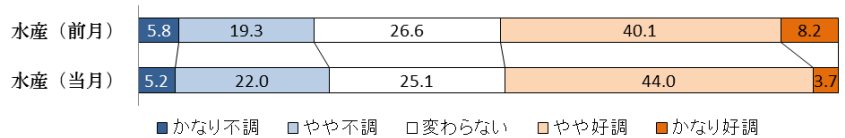
【青果】不調 DI: -19.0

青果相場の相場安(後半はやや上昇)により主力野菜の単価が下落し不調となった。果物については、好不調がわかれているものの、みかん(柑橘類)やいちごの不調をあげるコメントが多かった。



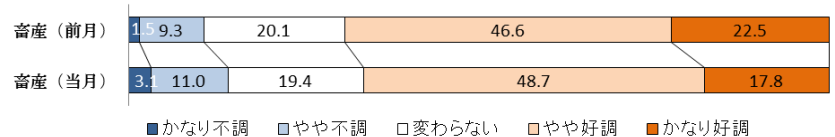
【水産】やや好調 DI: 4.7

相場高を追い風に歳末の刺身類や塩干類の好調をあげるコメントが多くやや好調となった一方でエビやカニ、ブリなどが高値のため不調とするコメントがみられた。



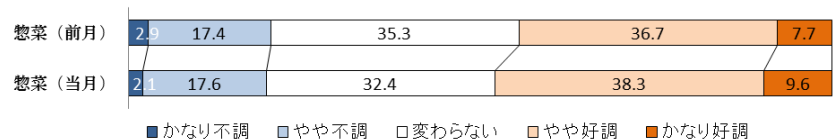
【畜産】好調 DI: 16.8

牛豚肉の相場高のなか、年末のすき焼きや焼肉、鍋需要で、牛肉が特に好調であり、なかでも国産や高単価商品の動きがよいというコメントが多かった。



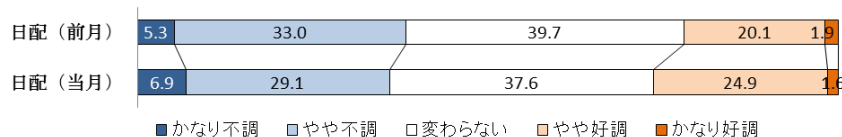
【惣菜】やや好調 DI: 8.9

クリスマスや年末のオードブルや寿司、てんぷら類の好調を指摘するコメントが多かった。高単価商品の取り組みやロスの削減に取り組み、成果をあげたというコメントもみられた。



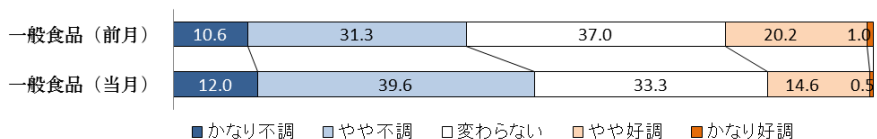
【日配】 やや不調 DI：-3.7

好不調まちまちの結果となり、全体としてやや不調となった。クリスマス商材や年末商材（蒲鉾、そば）はやや好調、その他和日配は不調、ヨーグルト飲料を除く、乳製品は価格上昇の影響で好不調がわかれ、冷凍食品は不調とのコメントが多かった。



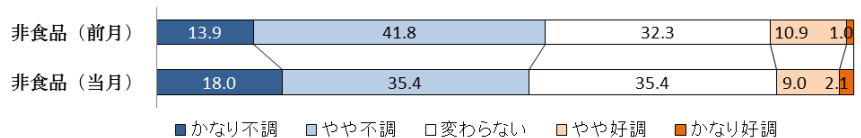
【一般食品】 不調 DI：-12.0

米の単価下落や気温低下による飲料類の不振に加え、同業に加え、他業態との価格競争を指摘するコメントが多く、不調となった。年末商材については、前年並みとのコメントが多かった。



【非食品】 不調 DI：-14.6

ドラッグストアと価格競争による不振に加え、たばこの不振をあげるコメントが多く、不調となった。特に日用品の不振を指摘する声が多かった。年末商材は前年並みとコメントが多い。



2014年11月キーワード TOP 3

1. 来客数の減少(来店頻度の減少)
2. 年末(29日)の天候不良
3. 年末年始商材(好調～前年並み)

スーパーマーケット景気動向調査

- 12月実績速報版集計197社
- 11月実績確報版集計217社